



長岡京

サポセン通信

10月号

2017年9月発行

長岡京市

市民活動サポートセンター発行

バンピオ1番館1階

075-963-5505 fax:075-963-5523

=乙訓 DREAM フェスタ 2017 のお祭り報告=

10月に入りいよいよ秋のお祭りシーズンに突入しますが、これに先駆けて先月9月3日に公益社団法人乙訓青年会議所が“夢・笑顔・感動”と題し2市1町の市民を集め、「乙訓 DREAM フェスタ 2017」を天王山夢ほたる公園にて開催されました。(来客数6,000人との報告あり。)

ふくらまそう夢の風船をテーマに、乙訓の多くの市民・団体・企業等々が集い街づくりの基盤を作る為のお祭りで、住民の横のつながりを作る事を促進するために開催されました。

物販・飲食の各店舗も殆ど完売で大成功、フードバンクのお店は、商品を販売するのではなく、商品を持ち込んで貰う店舗でしたが、持ち込み商品が多く集まっていました。あそびゾーンの水鉄砲・竹馬・輪投げ・風船アートと大賑わい、舞台では、いろんな音楽演奏にダンスと盛り沢山な出し物で観客を魅了していました。乙訓消防署の煙体験、ふわふわトランポリンも人気でしたが、自衛隊の制服着ての写真撮影は、子供・大人も一体になって楽しんでいました。



サポートセンターの登録団体は、NPO法人京おとくに・街おこしネットワーク、NPO法人AK・クラブ、「男の居場所」の会、セカンドライフの会、まちづくり女子会、フードバンク長岡京等の団体が参加しお祭りを大いに盛り上げました。



2017年度から市民活動ネット・チーム長岡京が継承する

=「竹あそび」の趣旨書=

長岡京市は全国的にも良質なタケノコの産地として広く知られているところである。しかし近年、農家の高齢化・後継者不足が深刻化し、手入れされない放置竹林が年々増え続けている現状がある。繁殖力の強い竹を放置することは、生態系を壊し土壌保持力の弱さが土砂崩れを引き起こす可能性がある等、環境悪化が懸念されるところである。

そうした課題の解決に向けて、複数の市民活動団体が永年に渡って竹林整備に取り組んできているが、多くの市民の間では、「地元の美味しい筍」、「美しい竹林」といったイメージで捉えていて、様々な警鐘・告知にも関わらず放置竹林の深刻さが認識されていないのが現状である。そこで、より多くの市民が取り組みを理解し、参画して頂く必要性を考え、複数の放置竹林整備団体が中心となって「竹あそび連絡協議会」を組織し、過去8年間にわたって『竹でつなぐ・つながる・まちづくり』をテーマに、「竹あそび」と称する啓発イベントを行い、放置竹林問題を広く市民にアピールすると共にまちづくりに努力してきた。しかし、本年（平成29年）3月末に「竹あそび連絡協議会」は解散となり、今までの啓発イベントとしての「竹あそび」は市民活動ネット・チーム長岡京が、継続的継承していくこととした。

その実施に当たっては今までのあかり部門を、「長岡京竹あかり実行委員会」の事業とし、あそび部門は、長岡京市市民活動サポートセンター（市民活動ネット・チーム長岡京が指定管理者）フェスティバルに吸収し、同時開催のイベントとすることとした。

市民活動ネット・チーム長岡京が発展的継承をして行くにあたって、その趣旨を以下に纏めることとする。



～「環境保全」イベントから「参加型まちづくり」イベントへ～

- 1) 環境保全としての放置竹林整備の重要性を理解し、その継続的啓発を支援する。
- 2) 伐採した竹材を活用した「光と竹のアート」を展示すると共に、竹道具や竹工作など楽しく竹に触れる機会を作り、環境整備事業の素晴らしさをアピールし、事業の継承者の発掘に繋げる。
- 3) 長岡京市の「新・長岡京市観光戦略プラン」「上質な郊外の京」の暮らしで魅せる観光まちづくりに連動する形で、多くの市民活動団体を中心に、市内の様々な志ある団体と連携しながら、子供から大人まで楽しめる「参加型まちづくりイベント」を追求する。
- 4) 環境保全事業で発生した竹材を活かした竹細工や竹製品を新たに開発し、地域の特産品として広く販売する等、循環型地域社会の創出に繋げる場とする。又日本一と言われる筍のブランド力を高める。
- 5) まちづくりに欠かせない人と人の横の繋がりを強め「新しいまちづくり」のイベントに育てて行くこととする。

2017年10月吉日

市民活動ネット・チーム長岡京

理事長：山田和美

=サポセン事務局からのお知らせ=

**10月のなんでも相談会は

10月2日（月）・10月16日（月）の14:00～17:00 サポセンにて行います。ご相談お待ちしています。